令和４年度　第３回　学校運営協議会記録

１　日　時　　令和５年２月２日（木）9：40～11:30
２　場　所　　沼津特別支援学校　会議室
３　出席者
(1) 学校運営協議委員
村本　幸雄　様（元特別支援学校長）
池谷　　修　様（障害者支援施設沼津のぞみの里施設長）
越膳　　徹　様（有限会社イーリード社長）
草谷　修一　様（沼特ＰＴＡ会長）
杉山　真里　様（沼津市児童発達センターみゆき所長）
芹澤　和代　様（社会福祉法人長泉町社会福祉協議会会長）
梶浦　寛美　様（清水町健幸づくり課主任）
(2) 本校教職員

校　長	青木　暁乃	副校長	所　　康俊	教　頭	大石　真未
事務長	髙木　伸明	小学部主事	井上みづほ	中学部主事	齋藤　夕紀
高等部主事	田代　美紀	教務課長	山本　愛花		

４　内　容
(1) 開会
(2) 校長挨拶
・コロナ感染による閉鎖や感染拡大なく過ごすことができている。特別支援学校においては、県からの通知に基づき待機期間が長いが、保護者の方の御理解御協力を得て教育活動が継続でき、継続して教育を行える喜びを感じている。このまま年度末を迎えられればと思っている。
・協議委員の皆様に、参観していただきありがとうございました。
・沼津の特徴を生かした焼き物や作品を作業で制作してみたらどうか。ICT 機器はもう少し積極的に子どもたちが使いこなせるような方向での授業での使い方があるのでは。昔と比べ、ゆったりとした空間で活動を行うことができて教育の功を奏している。狭隘化だった頃を知らない教員と、今は恵まれた環境だということを共有して取り組んでいけると良い。HP にこういうことを載せるともっと見た人が喜ぶよといった現状を見てのさらなる御意見、教員にとって力になる御意見をいただいた。
・ボランティアの導入に関するアドバイスをいただいたり、ハンドベルの演奏についての話を聞かせていただいたり、皆様のバックグラウンドを基に参観していただき、こういったことが応援できる、こんなアイデアはどうかなど御意見いただく機会でありがたく思っている。すぐに取り入れていく部分、来年度に向けて取り入れていきたい部分がたくさんありました。こういった機会を活かして学校運営協議会が買いを増すごとにますますありがたい物になっているなと思っている。今日もよろしくお願いします。

(3) 協議等

ア　令和４年度学校自己評価・学校関係者評価について

（副校長）

・委員の皆様にいただいたご意見を載せさせていただいている。本校の自己評価を比較しながら評価していただいた。意見をまとめて学校評価の一部として県へ提出していく。今日はいただいた評価、意見から、本校の４つの柱から連携のところを深めていただきたい。校内での重点目標の取組としては本年度の水準をおおむね達している自己評価が多いが、それに加えて様々な評価で提言をいただいた今後の本校の連携で重視していきたいところの意見をいただいた。これらを参考にしながら令和５年度の活動をさらに充実させてつながりの重視を深めていきたい。

・本年度取り組んできた主な連携活動についての報告と合わせて、現在の連携の在り方についての御意見、今後の取組の提案をいただきたい。

（小学部）

・なかよしタイム（原東小との学校間交流）、東レアローズと直接交流ができた。直接交流ができたことで、人と人とのつながりが感じられた。

・原地区の方との地域交流や演劇の機会もコロナの状況でできなかった。中止になると、地域の方との交流がなくなってしまうので、来年度は授業の中に入り込んでもらいたい。例えば、さつまいものつる挿しから収穫まで一緒に行う、行事単元にお招きして一緒に行うのはどうかと学部では考えている。

・地域の方の中で人形劇や読み聞かせをやってくれる人、音楽を聴かせてもらう機会、図工（粘土、陶芸）を一緒に行うなどそういった人や機会がないか考えている。

（質問・意見）

＜委員から＞

・年にどのくらい顔を合わせている？

－小学部主事－

・なかよしタイムは、６年生が１回、その他の学年は２回。

＜委員から＞

・回数的に少ないと感じる。

－小学部主事より－

・相手校の実施希望回数もあり、回数を多くとることが難しくなっている。交流籍校を利用した交流も、コロナの影響もあり、実施が難しい。リモートも考えたが、実現しづらく難しさがある。

＜委員から＞

・年齢が低くなるほどリモートは難しくなる。

＜委員から＞

・さつまいものつる挿しを実現させるためにどこに声を掛けていこうと考えているのか？JA はいろいろなノウハウをもっている。具体的なイメージをして声を掛け

ていくと具体化するのでは。長泉はJAで稲作の手伝いをしている。

－小学部主事－

・原地区の方と交流する機会もないので、どのように声を掛けていけばいいのかと思っていた。

＜委員から＞

・保護者は交流の授業の参観や参加の機会があるとよい。清水特支は地域の方が来て授業をやっているが、ＰＴＡも一緒に参加している。保護者も参加できる機会が欲しい。

＜委員から＞

・コロナ禍の影響で人数を制限しなければならないが、地域の人に気軽に入ってもらえる機会があるとよい。

＜委員から＞

・ハンドベルのコンサートを年に４～５回している。コロナ禍でも活動していた。

（中学部）

・小学部で身近な人と交流を進めてきた後に、地域に目を向けていくのが中学部だと考えている。地域の方を招いて授業をしたり教えてもらったりして交流が多くなっている。

・ワザチャレンジ（県の事業）を活用してフラワーアレンジメントをしたり、体育の授業のゲストティーチャーとして、アスルクラロの選手の方に来ていただいたりしている。選手に「試合見に来てね。」と言われ、実際に試合を見に行くなど余暇にもつながっている。

・委員会活動としてアルミ缶つぶしを行い、近くの事業所に納品している。事業所には卒業生もいるので、仕事をしている先輩の姿をみることもできた。

・直接交流はできなかったが、まいとりや保育園の子どもたちが喜ぶものを作って届ける授業を行った。保育園の子どもたちに喜んでもらえるにはと考えることができた。

・みらーとさんに来ていただいて美術を教わったり一緒に作品作りを行ったりしている。

・園芸班はあしたか公園に花壇を作っている。原地区センターの地域の環境整備部の方と一緒に行っている。たくさん褒めてもらって自信をもって帰ってくる。一緒に行ったり見守ったりしてそれぞれのかかわり方でかかわってもらっている。

・プロの方を招いて書道アートも行っている。

（質問・意見）

＜委員から＞

・団体やゲストティーチャーの回数も増えている。平日の昼間となると、高齢者の方は時間がある。子ども同士の交流もあるか？

－中学部主事－

・今沢中と２回直接交流を行った。居住地校交流は 43 人中 7 人が参加した。
＜委員から＞
・働くということがテーマで事業展開している。追及すると本当に皆働かなければならないのか。相反するテーマが浮かんでくる。職業訓練をしていると、今の社会で持続的に働くことができる、生活の安定している人は、仕事とは別に夢中になれるものがある。文化やアートが職業になればすごく素敵なことだが、それは難しい。
・夢中になって絵を描く、物を作るといったことを体験しておくと、社会に出たときに趣味やガス抜きとなるから､その子のそのあとの生活が機能していくのでは。みらーともいろんな視点で事業展開しているが、我々の角度から見ると一つ夢中になれるものを仕事は別にもっていくという視点では、みらーとの事業を活用してもらえれば。
＜委員から＞
・卒業後、趣味の方たちが集まっているサークル団体はあるのか？
－中学部主事－
・ダンス、ファッションショーは聞いたことがある。事業所の中で行っているということも聞いたことがある。
－高等部主事－
・スポーツ関係、育成会の事業を聞いたことがあるが、コロナの関係で難しくなっている。生徒たちの中でも地域のスポーツの集まりに出ている子もいる。
＜委員から＞
・HP にそういった団体が出ていると検索して参加しやすくなるのでは。

（高等部）
・小中学部の経験を土台に、より日常的に地域の方に授業へ参加していただいている。さらに、自分たちが地域の一員として活躍する場を作っている。
・生徒会の呼びかけで、沼津市で行っている市内クリーン作戦に参加した。学校周辺の清掃を行った。
・地域学習では、１年生は沼津市、２年生は長泉町清水町まで範囲を広げ、3 年生は 2 年次に行った静岡学習を深めた修学旅行を行った。１年生は、ひものをテーマにして行った。
・ボランティア部は、社協と協力して福祉についての講義を行ってもらったり、赤い羽根共同募金の活動に参加したりした。コロナで地域の方に向けてという実施ができなかったが続けていきたい。
・作業学習では、クリーンサービス班が、原地区の婦人部の方にご指導いただきながら老人憩の家の清掃を行った。学校での学習を活かして大きな窓や床の清掃を行った。定着してやっていきたい。
・学校間交流として、沼津工業高校、飛龍高校と、異年齢の交流としてあしたか保育園と交流を行った。

・今後、作業学習では陶芸の指導やハンドベルの演奏といったように、地域の方にご指導いただいて授業を展開していくことを進めていきたい。

（質問・意見）

＜委員から＞

・地域と積極的にかかわっている。

・職業対話の原東小で行った。東電が行っているプロジェクトだが、これまで中学生対象だったが、初めて小学生を対象にして行った。逆に高校生はないのかなと思う。高等部１・２年生を対象に職業対話をできると良い。東電の事業を活用すると良い。知らない職業がたくさんある。だれでも知っている職業はこちらが発信しなくても子どもたちは知っている。頻度を増やしていけると、子どもたちが何かを選択しなくてはいけないときに対話の時間は貴重だと感じた。よろしければ紹介します。

－高等部主事－

・今、来年度の計画を立てているので、ぜひ教えていただければと思います。

＜委員から＞

・地域学習でお茶は行わなかったか？

－高等部主事－

・今年度は子どもたちの中でひものが人気だった。歴史というところで御用邸に行った。昨年度は意見としてあがっていた。年度ごとに生徒たちが学習内容を選択している。

＜委員から＞

・地域の人とふれあって、多くの地域の人にこの子たちはすごいなと知ってもらえるようにアピールする機会を作っていけるとさらによい。

イ　令和５年度学校経営計画案について

－校長から－

・４つの柱と方向性には大きく変更はない。

・ここ数年つながりを意識して行ってきたので、つながりをベースにした学校経営で、つながりを強めていこうという考え方で見直した。

・連携においては、まだまださらにつながりを強めて豊かにしていく必要があるということを思いつつも、今ある物を大事にしてそこを基盤に共生社会を目指す学校を作っていきたい。その一員として役割を果たしていきたいという思いを込めている。

・専門の項目の達成方法に ICT 活用について書かれているが、協議委員さんにいただいた御意見を具現化していかなくてはというところから明記させていただいている。

・連携の項目の成果目標（地域資源を～）は、この地域に沼津特別支援学校があるんだという存在感をより強固なものにしていくという意図のもと、このようなこ

とを（経営案に）入れて職員も意識して取り組んでいきたい。
・グランドデザインは内容に大きな変更はないが、見やすさを意識した。昨年度は２枚となっていたが、今年度は１枚にまとめた。つながりが学校経営の基盤というイメージで１枚にした。
・先ほどの学部の話の中で、小学部の指導を受けてという中学部、小・中学部の指導を受けてという高等部といったような指導のつながり、保護者とのつながり、地域とのつながりと大きな４点のつながりを柱にし、さらに具体的につながりが行われる場を描いてという形になっている。
・今、協議委員の皆様に御意見・質問をいただく中でつながりについてのヒントをいただいた。経営案やグランドデザインにつながりということば入れても、どこへ、どのように、何をというつながりの具体化に弱さがある。具体を提言いただいた。交流活動や学習についてその価値や、それはどういう授業をやるのか、それをもっとやるにはどうしたらよいか、学習の再確認をさせていただいた。継続的にやっていく部分も見えてきた。経営計画を実際、具体的な学習計画や行事計画に落とし込んでいくときに御意見いただいたことを入れていく。
・今説明したことと紙面で、来年度の学校としての思いが十分に伝わるものになったか。
・今は案であるが、来年度の第１回の運営協議会では、固まったものを示すことになると思うので、今意見をうかがって反映させたい。
＜委員から＞
・学校経営書はあまりなじみのないものだと思う。
・令和４年度は項目が多岐に渡っていたが、令和５年度は集約された。１ページになり、重点が焦点化されている。
・分からないところは率直に言っていただけると表現が分かりにくいと学校も気付ける。
・専門のところでは、成果目標の保護者が説明を受けているというところは、もう一歩踏み込めないかなとも思う。説明を受けたけど納得していないという保護者もいるかもしれない。理解しているという状態に持っていければと思う。
・端末を活用した授業とあるが、使い方は堪能で、我々が知らない機能も使いこなしている方もいる。将来どんな生きる力がついていくのか、そこまでイメージできていると良い。
＜委員から＞
・子どもたちは障害福祉サービスを利用している。学校も大事だが、福祉サービスをもとに学校に通えている、学校生活が送れている。今はほぼセルフサービスはなくなり、相談支援事業所が入ってきている。家庭が安定しないと学校にも通えなくなってくるので、家庭が障害福祉サービスを利用できているかなど障害福祉サービスとの連携も入れていただけるとよい。以前は、学校は学校というところもあったが、変わってきている。家庭の利用状況を確認や相談支援が妥当かどうかなども介入していって欲しい。

－校長から－
・必要な参加者という文言に含まれている。利用状況がどうかや相談支援が妥当かどうかの評価を学校の職員がすることは立場的にも難しい。学校の立場としての意見をもつことはできるが、どのような文言にしていくとよいのか。
＜委員から＞
・相談事業所がほとんど入っている。不登校の生徒など、学校から仕掛けていかないと親は難しいところがある。不登校になってしまう前に情報を共有したり、相談事業所を利用してなければ相談を受けた方がいいのではと勧めたりして早め早めに対応できると良い。将来的にそういった連携が必要になっていくのでは。
－校長から－
・連携が会議の運営が形になっていく、個別の教育支援計画の書式が実行的なものにしていくというのがいいですね。
・つながりのある支援と指導の充実の欄の個別の教育支援計画については、学校だけでなく周りを取り巻く支援状況を明確にしていくものなので、教員も研修を深めて、実働的なものにしていく。ということを、文言としては表さないが、忘れずにやるようにしていく。
＜委員から＞
・ケース会議の結果、この家庭にはこういった支援が必要だねということで関係者が集まってつながっていった結果、保護者は利用の仕方やメリットが分かって活用しているという評価になる。職員だけでケース会議を開いた、無理だったという評価ではなく、小さいころからそういったことをしてもらっているという土壌がある。
・片仮名の言葉が多くアサーションという言葉は分かりますか？ネットで調べました。職員は分かっていますか？
－校長から－
・質問がありました。
＜委員から＞
・気持ちを伝えあえる、自己主張を、関係性を築きながらやっていけるように。
・職場内の円滑で効率的なコミュニケーションが図れるようにと、そこまで盛り込んでいると大変なのでアサーション研修となっているのですね。
・グランドデザインについてはどうでしょうか。
・来年度はつながりというキーワードを赤で示して、学校の経営のベースにしたいということの意図がパッと見てわかるといいねという意見が職員から出ている。上半分は精選されていて関係性が見やすい。下半分は単語がたくさん並んでいますね。どうでしょうか。
－校長から－
・運営協議会を入れたかったのですが、地域でもあり、保護者でもあり、関係機関でもある皆さんのバックグラウンドを考えると、どこに入れるのが良いか。
＜委員から＞

・学校の組織図には運営協議会というのは？
－校長から－
・関係性を示すような形で表れてくるとよい。昔のように学校と一体化しているものではなく、対等に渡り合う形での関係性になっている。
＜委員から＞
・運営組織図のものがグランドデザインにでてくるといいかな、ということでしょうか。
－校長から－
・つながりの方に。支えていただいているということを考えると。
＜委員から＞
・単語がいっぱい並んでいるので、どれがどれとつながっているのかが分かりやすくなると良いのではないか。
－校長から－
・カテゴライズになっている。つながり方の具体がその近くにちりばめられているというようになっているが、説明しないと分かりにくいですね。
＜委員から＞
・サークルで囲むなどして図でまとまっていて、視覚的な補助があるとよい。
－校長から－
・連携の成果目標に、具体的な支援を受けているということを掲げさせていただいている。皆さまのバックボーンを含めた形で、支援や御助言をいただけていることもきちんと成果として考えていきたい。具体的な提案をしたうえで支援を得ていくようにする。
＜委員から＞
・情報の共有化はとても必要なことで大切にしていきたい。情報の共有化がされ、今後の方針と役割分担が明確になっているとしてはどうか。
・連携の充実に向けた取り組みについて今年度の成果も踏まえて、来年度に向けてアイデア、情報、ヒントをいただければ。
・児童生徒の自立と輝きに向けて
－校長から－
・思春期指導、青年期講座　個別に対応している。作業所での性指導
－高等部主事－
・地域学習で、清水町・長泉町でテーマになりやすいところはあるか？
＜委員から＞
・清水町は、緑米や柿田川が有名である。
・長泉町は、福祉会館まつりがある。(R5 年度は 10/15) 出店したりブースを開いたりして地域の方に沼津特別支援学校を知ってもらうとよい。
＜委員から＞
・事業所の先輩もいて、自分の母校がパネル出したり。
・悠雲寮の方も参加してくれている。

・原地区にはそういったものがあるか？
－高等部主事－
・沼津の福祉まつりに参加する計画していた。
＜委員から＞
・清水町もそういうものがある。その他にスポーツ推進委員会があり、障害者スポーツに力を入れたいけど、どこにお知らせしたらいいか、悩んでいる。そういうのに参加したり、講師になったりして活躍の場にしてもいいのでは。
・単発で終わらず、続けていけるとつながりの強化、地域とのつながりができていく。
－副校長－
・塗装工事が終わり、校舎がきれいになったことを機に、学校の印象が強く残るような効果的な策や、校舎の利用のアドバイスがあれば。
＜委員から＞
・地域の人に来てもらうということが大事。来年度の目安として、コロナの状況が緩和されて人の出入りがどうなっていくのか。共に活動できるようになっていくか。運動会や学習発表会、学校の美化活動にもどんどん入ってきて整備してもらえるとよいが、難しいか。
－校長から－
・PR 活動をしていきたいが一方で招き入れるということも考えていかなければならない。壁を掲示板のように使っていきたいが、印象としてはどうか。
＜委員から＞
・作品を飾ったり絵を描いたりするのはどうか？子どもたちの絵を映し出してプロジェクションマッピングのようにしてはどうか。イルミネーションのように。
・ネットで公募して、子どもたちと一緒にできたらよいと思う。
・積極的な広報・発信のためには、まずはターゲットを絞り、そこから広げていく。人が入って来られるようになれば、一回でも関わりのある人は、関心や興味をもってくれ、ホームページやおたよりを見てくれる。専門家を呼んでいる段階は、まだ点のつながりなので、点と点がつながってコミュニケーションの輪が広がっていくようになるとよい。
・エスパルスがボランティア活動を行っている。PTA の活動で、サッカー教室を行った。学校の授業で関われると良い。
－副校長－
・小学部でも、授業の中に入っていただいてかかわりをという話もあったが、講師の調整としては可能だ。地域の財産を活用する。
＜委員から＞
・沼津市は、幼児が学びの場を考えるにあたって、つながりがあるか。
・子ども同士の交流はなかった。歩いて行ける距離なので、散歩をしながら、学校に年長児を連れて、交流をしながらみゆきの職員が読み聞かせを行うということもできる。
・職員の研修もコロナで中止になってしまったが、来年度は積極的に来ていただけ

るとよい。

・年長児が 10 人いるが、特支４人、支援級４人、通常学級１人、東部特支１人と分散している状況。親の関心は高い。支援学校がどんなところなのか話をしてもらう機会があってもよい。

・０～５歳の子がどう育っていくのか、見学や研修で知っておくとスムーズな移行となる。忙しいから難しいか？

・支援学校の参観をしたことを職員に伝えたら羨ましいと言われた。職員の研修として見学ができるとよい。

・学部職員同士の交流はあるか。

－高等部主事－

・学部間交流を行っている。

＜委員から＞

・卒業後、学校のつながりはあるか。

・ともえ会があるが、入会者が少ない。つながりが難しくなっている。

・卒業後、相談するところとしてこんなところがあるということを知っておくといいのでは。そういった情報を得られるシステムがあるのか？生涯の生き方を考える。

－高等部主事－

・事業所とのつながりはある。３年間はアフターフォローで回っているがその後はなくなる。

・相談支援事業所や社協から教えてもらう機会があると良いが。

・自立支援事業はあるが、金銭に困っているなどよっぽどのことでないと相談に来ない。特支関連は事例に上がって来ない。学校の卒業生がどこに行っているか分からない。

・卒業後どういう生活を送っているか講話があっても良い。

・意見を役立てて令和５年度の準備ができるようにしていただければと思う。

－副校長－

・いただいた意見を参考に、どんな活動ができるか考えていきたい。

(4) 令和５年度の予定

・11 月頃に実施した個別参観の機会は今後も続けていきたい。

・令和５年度は前期・後期に参観期間を設定し選択できるようにしてはどうか？

(5) 閉会

－校長から－

回を重ねるごとに距離を縮めて考えていただきありがたいです。